

抜開砲方一〇四大隊略歴

年月日	概	要
昭一九七、三三	舞鶴重砲隊連隊に於て抜開砲一〇四大隊編成完結	
七、二五	舞鶴出港	
七、三一	内司港出帆	
八、一〇	那覇港上陸	
八、一六	中頭郡北谷村屋敷附近に於て中飛行場警備	
一〇、一四	瀬底船地附近に於て船団掩護	
一〇、一〇	南西空襲戦に参加 同台湾沖航空戦に協力	
昭二〇、一、四	南西空襲戦に参加	
一、二二	同	
三、一	同	
五、二七	那覇港に於て敵と対峙し対空戦	
五、二八	摩文仁の線に転進	
五、二八	摩文仁附近の戦に参加	
六、二八		

特立迫真カ六中隊略歴

年月日	概	要
昭一九八、一二	動員下令福井県籍江	
八、二六	編成完結	
九、一八	籍江出発	
九、二〇	博多着	
九、二四	博多港出発	
一〇、八	鹿児島港出発(其の向船に有る)	
一〇、一〇	途中(アマミ大島附近)から引返す	
一〇、一八	二日目鹿児島港出発	
一〇、二四	那覇上陸	
一〇、二五	以降島尻地区の防衛	
二〇、三、二二	以降島尻地の戦に参加	
六、一九	部隊玉碎	

独立迫真砲方八中隊略歴

年月日	概	要
昭一九、八、二三	福井県中部方八〇部隊に於て動員完結	
九、二五	方八〇部隊出発	
一〇、六	鹿見島港出帆	
一〇、二五	那覇港上陸	
一〇、二六	方三十二軍の指揮に入る	
至日 一〇、二六 一一、三〇	島尻郡兼城村座敷に位置し陣地構築作業に従事す 以後陣地構築及戦斗に入る	
二〇、六、二〇	〇一三〇時村上曹長以下全員斬込隊を編成之、陣地に斬込を敢行す	
	右斬込に於ける戦死確認者 小林軍曹以下六名	
六、二二	爾後の状況不明	

独立迫真方九中隊部隊略歴

年月日	概	要
昭一九、八、三〇	中部方八〇部隊に於て編成完結	
九、一五	鯖江出発	
九、一七	福岡着	
九、二二	博多港出港	
一〇、六	鹿見島港出帆	
一〇、九	奄美大島附近より引返す	
一一、三	鹿見島港再度出帆	
一一、七	那覇上陸	
二〇、六、二〇	沖縄本島に於て玉砕	

独立高射砲方二十七大隊略歴

年月日	概	要
昭五、五、七	動員下令	
五、一、九	編成(動員)完結	編成地 下関(高等女子同校内)
五、二、四	汽車搭積	編成地 任部隊
五、三、五	下関駅(朝)出發	防空方二十三連隊
五、三、六	鹿児島到着 同脚下	
五、三、八	輸送塔積	
五、三、九	乗船	
五、三、〇	鹿児島港出帆	
五、三、一	沖繩港着	
六、一	沖繩上陸 以後戦斗に入る	

年月日	概	要
昭五、七、二〇	小倉市北方西部入。八八部隊内に於て編成開始(編成担任官 小林大尉)	
二六	編成完結	
	編成人員約三五〇名大隊本部方一中隊、方二中隊、方三中隊、一々中隊 定員九八名	
	大隊長 陸軍大尉 村上末夫 方一中隊長 中尉 谷口英雄 方二中隊長 中尉 水戸田曉 方三中隊長 渡辺春朗 副官 安永 董	
三一	門司港より乗船	
八一〇	那覇港上陸	
八一〇	軍命令に依り護谷山村渡辺部若北北方飛行場警備の任につく	
八一〇	午後同飛行場に於て一〇、一〇。水軍空襲により対空戦参加	
一一二	対空戦	
一一二	頃対空戦	
三、三、三	北飛行場に於ける対空戦	
三、三、七	中頭島、辰北部に於ける戦斗	
三、三、七	島尻南部の戦斗	
六、二、四		

独立重砲方百六隊略歴

年月日	概	要
昭一九、六、二二	神奈川景横須賀市東部方七十五部隊に於て編成着手	
六、二五	編成完結	
七、四	門司港出帆	
七、一二	沖繩県那覇港上陸	
七、二二	島尻郡真和志村国民学校に部隊本部及方一、二中隊大隊段列を置き島尻地区の防衛の任に当る。方三十二軍の管下に入る。	
七、三〇	方一中隊は糸満方二中隊は国場大隊本部は真和志村に夫々配置し爾後陣地構築及教育訓練に邁進せり。	
一〇、一〇	対空戦斗に参加	
二〇、四、一	敵上陸迄は部隊の主力を以て洞穴陣地及観測所構築其の他諸準備	
四、六	敵上陸地上戦斗開始せしむるや方二中隊主力は柵原村字千原陣地に進出。方一中隊主力は大里村仲程陣地に夫々射撃準備完了せり。	
四、二二	柵原陣地に在る方二中隊は北、中飛行場に対し射撃を開始。敵に多大なる出血を与へたり。爾後四月十二日迄に相当なる戦果を挙げたるも。	
六、二	午前十一時敵迫撃砲陣地内に落下装薬に延火。遂に小隊長以下玉砕せり。残在兵力全員大隊長及各中隊長の指揮の下に射撃を敢行せり。	

独立重砲方百六隊略歴

年月日	概	要
昭一九、七、一八	板橋独立機甲方十四大隊編成完結	
七、二五	東京出発	
七、二六	門司着	
八、一	門司港出帆	
八、一〇	沖繩本島那覇港上陸。同日より沖繩本島防衛に任ず	
八、一四	独立機甲方十四大隊編成完結	
	部隊作成開始時の編成	
	編成総員 約三〇〇名	
	大隊本部 大隊長 陸軍中佐 村山甚太郎	
	陸軍主計大尉 伴信夫	

概

要

砲兵情報才一連隊略歴

年月日	概	要
昭一九、九、二七	滿洲東安省雙德砲兵情報才一連隊にて編成	中隊長以下九十三名
、二、七	沖繩上陸 独立測地才一中隊と改称せしれ主計衛生下士官配属せらる	
二〇、三、	敵求襲と共に砲兵団司令部直下の糧秣被服運搬に協力す	
四、一	以降各地に観測所を設け才三十二軍司令部砲兵団司令部へ情報収集ニ中隊全力を挙げて任ず	
四、二五	内田軍曹以下二名輕迫一大隊に配属	
四、三〇	小畑上等兵以下八名独立重砲才百大隊に配属、自動貨車 三車輛共	
五、二七	砲兵団司令部と共に真栄平に撤退す 中隊長は司令部情報班長の職に在り 中隊は戦斗準備をなす	
六、一五	高射砲司令官吉田中佐の指揮に入る	
六、二七	兩日の戦斗により中隊の八割を失う 中隊長は斬込の命を發し自ら摩文仁軍司令部に至る。	

独立混成才四四旅団司令部略歴

年月日	概	要
昭一九、五、	旅団司令部は才三十二軍担任にて沖繩に於て編成	
一九、六、	才一歩兵隊才二歩兵隊旅団砲兵隊旅団工兵隊は才六師団管下に於て編成せらる	
六、二九	〇七。〇旅団主力は沖繩に向う途次、輸送船富山丸は敵潜水艦の魚雷攻撃により甚沈せられ残存する者三分の一に満たざるも残存者を以て仮編才上部隊を編成す。	
八、下旬	補充人員の到着	
九、	沖繩に於ける現地召集に依り才二歩兵隊旅団砲兵隊旅団工兵隊の編成完結す	
	独立混成才十五連隊は富山丸遭難に依り七月初旬急遽空輸せられ本島到着と同時に旅団の指揮下に入り九月其の隷下に入りしめらる	
	作戦準備期間	
	北正面戦進迄の戦斗	
	北正面戦斗加入より五月四日攻勢迄	
	総攻勢中止より島尻戦進迄	
	島尻戦進後の戦斗	

独立混成方四十四旅団工兵隊部隊略歴

年月日

概

要

昭五 六、 動員完結出帆の富山丸遭難事件分 動員関係月日詳細不明(残存者二〇名)

八、一五 西部ヲ二十二部隊にて動員完結

一八 同隊発

八、一六 鹿見島高等女学校に於て待機

八、二八 鹿見島港大信丸にて出帆

八、二九 大信丸火災のため大島名瀬港不時着港

九、一 名瀬国民学校に宿営

九、二 名瀬港厦門丸にて出帆

九、四 名瀬港着 伊豆岬

九、一三 回頭伊豆岬に移動

一三、一五 入重嶽に移動

下宿 中頭屋宣に移動

二〇、二上旬 島尻系敷に移動

三、二三 甲号戦備下令

五、四 首里の戦斗に参加

五、二九 島尻南部与空仲空に夜進戦斗に参加

六、六 松尾ヲ十五連隊に配属

六、一六 同日頃より中隊の戦斗機能消滅

六、二六 解隊

独混十五 聯隊略歴

年月日	概	要
昭五、六、四	習志野に於て編成完結	
七、一	習志野出發	
七、九	九州新田原	伊江島回空輸
七、九	伊江島警備	
二、四	沖繩本島に移動中頭地区の警備	
二、一	島尻地区の警備	
三、五	米軍艦砲射撃開始	
四、一	北谷漆川附近に米軍上陸	
四、七	首里附近に表進	
六、三	島尻南部に表進	
六、八	聯隊砲中隊の機銃消滅	
六、三	カ一大隊最後の斬込敢行	
六、一	カ二大隊は三日以降の戦いに於て損害甚しく大隊の機銃消滅	
六、一	カ三大隊最後の斬込敢行	
六、六	聯隊は解散し参戦	

独立歩兵カ二十七三六隊略歴

年月日	概	要
昭一九、一〇、五	特校及下士官を	
一〇、八	兵を、各々中部カ二十二部隊に召集	大阪天王寺商業学校に於て独立歩カ二十七
二〇	三大隊編成	
二〇	編成完結	
一、二二	大阪駅出發	
二、三	門司駅着	同地に宿営
二、七	門司港出帆	
三、〇	鹿児島港着	
三、九	鹿児島港出帆	
一、五	那覇港上陸	沖繩県島尻郡安里国民学校に宿営駐留 以後本島の防衛並に戦斗に入る。

独歩二七二大隊略歴

年月日	概	要
昭一九一〇.三	東部才六十二部隊に於て編成完了す	
一一.二〇	衛成地出発	
一一.二八	門司港出帆	
一二.二五	那覇港着 今日上陸	
二〇.五	首里同対市附近の戦斗に参加 首里市笨嶽の戦斗に参加 眞和志村藏名附近の戦斗に参加 阿波根附近の戦斗に参加 摩文仁林米須 喜屋武村上金附近の戦斗(山城)に参加	
六.四		

独歩才六十三旅団司令部略歴

年月日	概	要
昭一八.六.二八	坂井才六十三旅団編成完結(旧独立混成才四旅団基幹)	
一八.二.九	北支山西省陽泉に於て才六十二師団隷下に入る	
一九.三.三〇	十八年秋期 冀西作戦参加	
四.三	河南(京漢)作戦準備	
七.下旬	河南作戦(京漢)	
七.下旬	戦進の爲開封に集結	
八.下旬	北支開封に於て戦進準備及部隊の整理	
八.九	冲縄本島に戦進の爲 開封出発	
八.一六	中支浙江省呉松より上船	
八.一九	冲縄本島那覇港に入港上陸	
二〇	上陸	
二〇.三.三三	同日直ちに中頭中央地区(司令部宜野湾)に前進 爾後宜野湾村西原村 浦添村附近に於て作戦準備	
二〇.四.一	甲号戦備下令と共に戦斗配備完了	
二〇.四.一	敵本島に上陸 戦斗開始と共に参戦	
二〇.六.二二	島尻南端 摩文仁附近に於て玉碎	

独立歩兵第十一大隊略歴

年月日	概	要
昭一八六、二八	師団編成となり独立混成方四旅団独立歩兵第十一大隊（力カ三、五九二部隊）廿	
六、二八	方六十二師団独立歩兵第十一大隊（石カ三五九二部隊）と改称せらる	
七、四	北支山西省晉陽景晉陽に於て方六十二師団独立歩兵第十一大隊編成完結	
十八年秋	夏大行作戦参加	
十八年秋	期冀西作戦参加	
山西	省晉陽和順遼泉地区警備	
河南	（京漢）作戦準備	
河南	（京漢）作戦参加	
北支	河南省開封集結（改編並に次期作戦転進準備）	
冲繩	転進のため開封出發（列車輸送）	
中支	浙江省江湾に到着輸送乗船準備	
吳淞	港に於て乗船出帆	
冲繩	本島那覇港到着	
那覇	上陸	
冲繩	泉中頭郡西原村附近に位置し同島防衛並に作戦準備	
冲繩	本島戦斗開始と共に参戦甲号戦備下令	
島尻	郡南端に於て玉碎	

独立歩兵第十一大隊略歴

年月日	概	要
昭一八六、二八	北支山西省榆次に於て編成完結	
北支	山西省榆次に位置し山西東南地区の警備及討伐	
京漢	作戦参加のため榆次出發黃河北岸に集結	
京漢	作戦に参加	
京漢	地区に集結 同地警備	
北支	河南省開封に於て改編転進準備	
開封	出發 上海に前進	
中支	浙江省江湾に到着輸送準備	
中支	吳淞港に於て乗船 同地出發	
冲繩	本島那覇港上陸	
中頭	郡中城村津覇附近に位置し 同地防衛並に作戦準備	
中頭	郡中城村皆天間附近に転移 同地防衛並に作戦準備	
中頭	郡美里村越来附近に転移 同地防衛並に作戦準備	
敵	侵攻に依り冲繩本島戦斗に参加	
玉碎	冲繩本島島尻郡南端に於て	

独立歩兵第六十三大隊略歴

年月日

概

要

昭二六、六、二八

第六十二師団編成下独立歩兵第四旅団改編
編成完結 同時六十三師団の編組に入る

六

北支山西省太原附近警備及討伐

一三、一

北支山西省太原附近警備

一九、三

京漢作戦参加のため太原出發

四、四

京漢作戦に参加

六

河南省鄭州及開封附近警備

七

輜糧の爲開封に集結 編整理

八

開封出發 上海に集結

八、一六

吳松出發

八、一九

沖繩那覇港着

八、二〇

那覇上陸

二〇、三、二二

中頭郡宜野灣村大山——伊佐附近に位置し同島防衛並に作戦準備
警備変更により中頭郡宜野灣村喜教附近に移駐 前在營統行

昭二六、三、二二

敵侵襲に依り沖繩本島に於ける戦斗開始

朝突如南方上空より敵機の大編隊來襲。七、〇頃より陣地及民家に対し銃爆襲
を開始す 軍は直ちに甲号戦備下令 大隊は戦斗配備を完了せり

三、二四

連日艦砲及爆轟に依る攻撃を受けラ昼夜兼行陣地の補強構築に全力を傾注せり
七時頃より嘉手納北谷方面に対し艦砲及爆轟を行ひ該方面よりする敵の上陸企
圖は明瞭に窺取する

四、一

〇七、〇敵は本島嘉手納北谷附近より独行上陸を開始せり
其の敵兵力は約四ヶ師団なるもの如し

四、三

空母よりする敵の砲爆襲掩護に依り敵の攻撃は開始され戦車一、歩兵約三百は
神山附近部隊前進陣地たる池本隊（五中隊）正面に攻撃し来る依て之と交戦

四、三

嘉手納敵上陸地点にありたる独立歩兵十二大隊先ず交戦
命に依り敵に多大の出血を喫せしつゝ逐次後退

四、三

早朝神山大山陣地に在りたる部隊前進陣地たる
池本隊（五中隊）正面に攻撃し来る 其の兵力戦車一、歩兵約三百、△隊

四、三

は兼ねて準備せる処により直ちに砲戦頑強に抵抗せるも敵は逐次兵力を増強し
戦車の接護により猛攻し来る為次第に苦戦に陥り特に神山中隊主力陣地は敵戦
車に蹂躪さるも中隊長以下克く最後まで頑強に抵抗し擱坐戦車一、敵兵力多数

四、三

を殺傷せり、一方大山陣地に在りたる一ヶ小隊は小隊長の的確なる射撃指揮によ
り適時適切に擲弾筒輕種の威力を集中發揮し該敵をして一歩も陣内浸入し得ざ
らしめ大なる戦果を収めたり。

四、三

二一時大隊本部より後退を命ぜられ神山に集結部隊予備隊となる、我が方戦死
若干名

四、三

二一時大隊本部より後退を命ぜられ神山に集結部隊予備隊となる、我が方戦死
若干名